

いしづち

愛媛労災病院広報紙第12巻第1号

（通巻第67号）

2014年1月5日発行

発行人：院長代理 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



皆様、新年明けましておめでとうございます。…… 2

手術室 …………… 2

歯周病と全身、歯周病と糖尿病 …………… 3

地域医療連携懇話会を終えて …………… 4

初期消火競技大会 …………… 4

イチロー時間 …………… 4

皆様、新年明けましておめでとうございます。

病院長代理 宮内文久

おかげさまで今年も独立行政法人労働者健康福祉機構愛媛労災病院として新年を迎えることができました。本来病院は、患者さんにとっては平癒の場であり、私達職員にとっては研鑽・奉仕の職場です。しかし、時の政権から独立行政法人の在り様が問われ、当院の存在様式も影響を受けてきました。例えば、かつては労働福祉事業団と呼ばれていましたが、今では労働者健康福祉機構と呼ばれています。しかし、これからもいかように名前が変わろうとも、私達は全員で協力して、より良い職場環境へと変えていきたいと考えています。自分の職場は自分で守らなければ、誰も守ってくれません。

さて、年初から気を引き締めようと決意を述べたところですが、そればかりでは疲れてしまいます。そこで私のリラククス方法をご紹介します。昨年11月中旬に大阪からボンバルディア機で仙台に向かっていた時、眼下に1/4円の虹が二重に架かっていました。カメラ、カメラと大急ぎで探したのですが、間に合いませんでした。残念ながらあのような虹はもう二度と見る事ができません。機上で何も考えることなくボーッと空を眺

めていると、あの雲はウサギかな、あれは恐竜だななどとたわいもないことを想像しています。雲の中を飛んでいる時飛行機は揺れて大変なのですが、あの先でミッキーマウスが顔を出してくれるのではなどと戯れています。ひょっとしたらあの雲ならその上を歩けるのではないかなどとも夢想しています。また、少しやる気がある時は、飛んでいる飛行機に会わないかなあとキョロキョロしています。この前は松山東京間の1回のフライトで二機見つけました。二機とも最初は窓のゴミかと思っていたのですが、ゴミにしては早い動きで「あっ、飛行機なんだ」と気がつく始末です。「1時間半の間に二機も飛行機を見つけたのだから何か良いことがないかなあ、神様お願いします」と今も心の中で遊んでいます。

仕事で大変なときもあるでしょう。そんな時にフッと我を忘れてたわいもないことを考えて心を遊ばせるのも、職場を守るコツかもしれません。



手術室

手術室は、「冷たい」「寒い」といったイメージを持っていませんか？実際は季節を問わず、手術室内は暖かく、手術室ベッドや掛け物も暖めて、患者様が寒くないよう様々な工夫をしています。

手術室には、7個の部屋があり、麻酔科医2名と平均年齢37.8歳の看護師15名が力を合わせて頑張っています。

平成24年度の手術件数は1,353件です。診療別手術件数は、整形外科521件、産婦人科300件、外科255件、泌尿器科108件、形成外科93件、歯科63件、総合診療科13件です。

近年、外科の腹腔鏡下手術やESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)など、患者様の体に負担が少ない低侵襲手術が増加しています。患者様のQOLを考えた新しい術式や進化する手術に遅れをとらないように、私たちは知識と技術の習得に日々努力しています。

手術を受ける患者様、ご家族の不安を軽減し、安

心して手術に臨めるよう術前訪問を行い、その情報をもとに私たち看護師も安全・安楽な看護・医療を提供できるよう毎日カンファレンスをおこなっています。また、手術中の看護を振り返り、看護の質向上を目指して術後訪問も実施しています。現在は、手術を待つご家族の不安を軽減し、安心して待機していただけるよう術中訪問の実施に向けて取り組んでいます。



歯周病と全身、歯周病と糖尿病

歯科口腔外科部長 千葉晃義

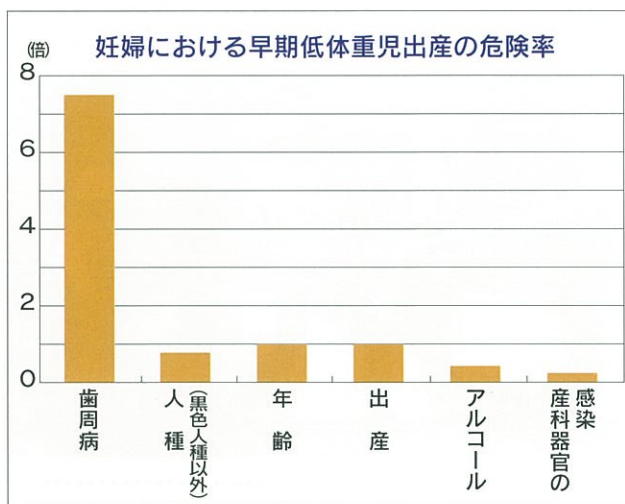
最近テレビの健康番組等で歯周病と他の疾患との関係が多く取りざたされています。以前は歯科と医科の連携不足からか？ 口腔も同じ体の一部にもかかわらず別々の視点から治療されてきました。歯科医は口の中の疾患のみを視野をせまくして治療していたのです。しかし最近の研究から実は歯科の疾患が多く全身疾患と関係があることがわかってきました。そこで、今まで以上に全身を意識しながら、疾患の治療の一環として、歯科治療が行われるようになってきています。今回はその全身疾患との関係について、特に糖尿病と歯周病の関係についてお話ししたいと思います。

歯周病はどのような病気なのかと言うと、歯肉の慢性炎症です。口の中が不潔になると細菌の塊であるプラークが歯の周りに付着しそれが原因で慢性の炎症を引き起こします。口の中は専用の鏡で見ない限り自分では見えないのでどのような状態になっているか解り難く、また、歯周病はサイレントキラーと言われ自覚症状がほとんどないので、知らない間に進行しているのです。その慢性炎症の状態を解りやすく例えてみると、片方の手のひらがじくじくと熟したトマトのように発赤してちょっと触ただけで血が出るような状態、それが歯の周りに起きていると思っていただければ良いと思います。この慢性炎症が全身とかかわっています。

歯周病は腎症、網膜症、神経症に次いで第6番目の糖尿病の合併症です。糖尿病は血管にダメージを与えるため毛細血管の集まる腎臓や網膜は高血糖の影響を受けるのですが口腔粘膜も同じく毛細血管が多いので糖尿病になると歯周病は進行します。だからこそ糖尿病の人は歯周病が悪化しないように注意しなければならないのです。ここまでは糖尿病の合併症としての話をしましたが、もう1つ、近年興味深い研究が発表されています。慢性炎症である歯周病の治療を行えば血糖値が下がりヘモグロビンA1cが改善する可能性が示唆されています。歯周病を治せば糖尿病も良くなる可能性があるという歯科医としては非常にやりがいを感じる研究結果なので、積極的に患者様に説明し治療を行っていかうと思っています。

他にも狭心症・心筋梗塞の原因になりうることがクローズアップされてきています。歯周病菌などの

刺激により動脈硬化を誘導する物質が出てプラークを作り血液の通り道を塞ぎ血管を詰まらせます。また、同じような原理で脳梗塞の原因にもなります。歯周病の人はそうでない人の2.8倍脳梗塞になりやすいと言われています。また、歯周病は低体重児早産を誘引します。妊娠している女性が歯周病に罹患している場合その危険率は7.5倍以上に上るといわれ、タバコやアルコール、高齢出産よりも高い数字です。当院においても歯周病に罹患している早産の危険性のある妊婦さんの歯周治療を行ったところ早産を回避できた患者さんが何人かいらっしゃいます。



このように、全身と口腔疾患、特に歯周病は複雑に密接な関係があります。2年前からがんの患者様を中心に手術前に口の中をチェックして、治療が必要な人は手術前に治療を行い、口腔ケアを行う周術期口腔管理が行われています。このように歯科と医科が連携しより良い治療を患者様に提供できればと思っています。



地域医療連携懇話会を終えて

平成25年11月21日に29名の連携医療機関の先生方をお招きし、地域医療連携懇話会を開催いたしました。

その会では、新たに消化器内科の森宏仁先生、小児科の山岡理恵先生をお迎えしたことによる新体制のご報告、愛媛労災病院の現状及び今後の展望等についてご紹介いたしました。

また、池田外科部長による「ステントグラフト治療実績」、都志見第二外科部長による「消化器科の活動報告」の講演を通じて実際の術式等をご覧いただき、当院の循環器外科、消化器外科領域の現状をお伝えできたと思っております。

今後も診療科のそれぞれの強みを生かし、連携医療



機関の先生方との緊密な連携を基に、安全かつ良質な地域医療の提供を行っていく所存ですので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

初期消火競技大会

平成25年10月4日に「第10回事業所初期消火競技大会」(新居浜市防火管理協会および新居浜市消防本部主



催)が開催されました。大会は、消火器消火競技、屋外消火栓消火競技、そして屋内消火栓消火競技の3部で構成され、ICUの佐々木さんは消火器消火競技に、櫻田係長、小松さん、竹熊さん、岸上の事務職チームは屋内消火栓消火競技に出場しました。

出場するにあたり、昼休みを利用しボイラー室の沖野さんのご指導のもと練習に取り組みました。参加チームは6チーム。目標の優勝に向けて、一人ひとりが自分の力を出し切り、結果、優勝することができました。緊張もしましたが、一つひとつの動作を焦らず正確に行ったことで減点が少なかったことが勝因だと思っております。

また出場する機会がありましたら、つぎは連覇を目指して頑張りたいと思います。応援に来てくださった皆様ありがとうございました。(文責: 岸上)

イチロー時間

イチロー選手は決まって試合4時間前にストレッチをするとか、3時間前にキャッチボールをするとか、試合1時間前にマシンを使った初動負荷トレーニングをするとか、試合があるときは同じタイムスケジュールで動いているそうです。ですから周りの人はイチローがキャッチボールを始めたから3時だと、時間がわかるそうです。それにより体をいつも同じ状態にして試合にのぞみ、そうすることでけがを防いでいるそうです。だから40歳であのパフォーマンスが出せるのですね。さすがです！と簡単な言葉では言い表せないすごみがあります。我々凡人にはなかなかできません。私にできることと言えば、飲み会の時間には遅れずに行って気持ち良くお酒を飲んで、なるべく3次会には行かず、12時以降の締めラーメンは控えるというようなことかなあ～と思いました。

さて当院野球部ですが、久しぶりに中・四国大会

優勝、医師会リーグの優勝と今シーズンは2冠です。良い戦いができました。去年までと違うことは山下新監督を迎え毎週きっちり月曜日と木曜日に練習したことです。やはり練習はうそをつかない！規則正しいリズムのある練習が効いたのでしょか。最後にこのオフは初動負荷トレーニングで身体を鍛えようと思っています。初動負荷マシン買えないかなー、大久保君！リハビリにも効果あるのだよね…。千葉。



！ 広報紙編集メンバー 委員長: 稲見精神科部長 委員: 木戸副院長、医局長(都志見外科部長)、看護副部長、師長1名、師長補佐1名(北6土肥)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、鈴木管理栄養士、総務課長、庶務係長、世一庶務係員、地域医療連携室員！